芙蓉書房出版　２月【委託】新刊　配本部数指定のお願い

弥彦と啄木

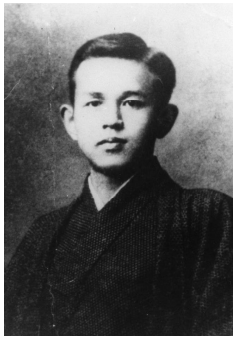
日露戦後の日本と二人の青年

法政大学文学部准教授

ISBN978-4-8295-0874-9

内藤一成 著　Ａ５判ソフトカバー400頁　本体 2,700円

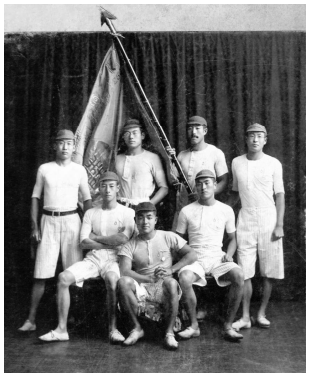
三島弥彦



石川啄木

明治19年（1886）2月、同じ年の同じ月に生まれた二人の青年、三島弥彦と石川啄木。満22歳の明治41年の日記１年分から興味深い内容や特筆事項を月ごとに摘出し、これに解説を加えて時代の一端を描く。

上流階級の出身で東京帝国大学学生という恵まれた環境にあった「三島弥彦」、
高等教育機関への進学の道を閉ざされ、生活に追われる「石川啄木」。
直接の交流はない対極的な二人の言動を歴史学的アプローチで分析し、
政治・経済・社会・文化などさまざまな角度から
日露戦争後の時代の雰囲気や空気感を伝える。
明治41年は、啄木が文学による立身をめざして４月に上京、
本郷に下宿し千駄ヶ谷の与謝野邸（新詩社）に通っている。
一方弥彦は千駄ヶ谷の自宅と大学のある本郷の間を日々往復している。
二人はあるいはどこかですれ違っていたかもしれない。



陸上競技記念撮影（大学時代）
後列右から２人目が弥彦

❖ 三島弥彦とは……
華族の子弟として東京に生まれ、学習院から東京帝国大学に進学。のちに日本が初めて参加した近代オリンピックである1912年のストックホルム大会に出場。日の丸アスリート第一号として知られる。

釧路時代の啄木の下宿

学習院游泳演習

❖ 石川啄木とは……
岩手県で僧侶の子として生まれ、貧苦の境涯で知られるが、今日ではその名を知らぬ人はいない国民的歌人。

啄木の苦境を何度も救った金田一京助（左）

NHK大河ドラマ「いだてん」に登場した
日本初のオリンピック代表選手「三島弥彦」
困窮生活の中、北海道から上京して
文筆の道を模索する「石川啄木」

**この二人の青年が同じ日に同じ東京で
何を見たのか
日記を通して明治の青年の姿を描く**

2月下旬　新刊搬入予定です

配本部数申込締切は　２月２日（金）　です

ＦＡＸ　０３－３８１３－４６１５

芙蓉書房出版
〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

	発行　芙蓉書房出版	注文数	注文者
	弥彦と啄木		
	2月新刊　本体 2,700円	部	